



いなほ



令和3年11月15日
令和3年度学校だよりNO.32②
加古川市立平荘小学校

脱穀をしました（3・4年生 環境体験学習）

11月12日（金）に、4年生が、地域の方々に教えていただきながら脱穀を行いました。3年生は、その様子を見学しました。

6月に田植えをし、暑い夏を越して、10月末に稲刈りをし稲掛けを行いました。10日から2週間自然乾燥をさせてから脱穀を行いました。



稲も大きく成長しましたが、子どもたちの心も大きく成長しています。その成長の様子が、稲刈りや脱穀の作業を通して、伝わってきます。



子どもたちは一生懸命に作業に取り組みました。

もち米10袋を収穫しました



後片付けも頑張りました



米作りを通して

6月の代かきや田植えでは、田んぼに集まる生きものに興味を示したり、泥の感触を味わったりして、いろいろなことに関心を持っていましたが、稲刈り・脱穀では、地域の方の説明をしっかりと聞き、作業に集中する姿が見られました。自分で考えて、自分にできることを主体的に見つけ行動に移せました。脱穀作業後の後片付けも、友達と協力しながら積極的に関われました。子どもたちの姿に成長を感じました。

子どもたちには、米作りを通して、お米が実った収穫の喜びだけを感じるのではなく、お米を収穫するまでに、多くの方々の支えがあって、今に至っていることを理解してほしいと願っています。

6月に田植えをしましたが、3・4年生の児童の力だけでは、田んぼを耕すことも難しいです。もみを蒔き育苗箱で稲を育ててくださった方、田んぼに水を入れてくださった方、代かきをしてくださった方、田植えの後稲刈りまでの毎日の水の管理や除草作業をしてくださった方、あぜの草刈りをしてくださった方、そして、田植えや稲刈り・脱穀に関わって下さった方々等、本当に見えないところで多くの方々に支えられて収穫ができました。収穫に向けて自然と闘いながら田んぼのお世話を子どもたちのためにしてくださった方々の存在は、決して忘れてはいけません。そのことを意識し、感謝の気持ちを持つ子どもたちに育ててほしいと切に願います。

